

福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

 神奈川県小田原市飯田岡二五七
 電話 0465(36)2755

令和時代のお寺事情

令和という新元号の時代が訪れました。かつて「明治は遠くなりにけり」という時期がありました。団塊世代の住職にとりましては「昭和は遠くなりにけり」との心境であります。明治といひ昭和といひ懐かしまれる時代は、あの時代は良かったなあとという意味が込められているように思います。言い換えると懐かしんでいる現時点はあまり良い時代ではないとも捉えることが出来ます。

ただ単に昔を懐かしんで言うこともあるかと思いますが、団塊世代の住職にとって戦後の昭和の時代は良かったように感じます。

その要素の元は子供から青年期、更に盛年期を送ったことに起因する

のではないのでしょうか。今に比べれば貧しく不便で不衛生、情報も少ない競争社会、何一つ良いものが無いようですが、若者の特権、夢と希望と目標があえて意識しなくても心身に染み込んでいたように思います。時代は常に人の世代交代を繰り返しながら進んでいきます。

さて、令和の時代のお寺事情はどうなるでしょうか。平成の後半には世間では「寺離れ」「墓終い」「永代供養」「家族葬・直葬」「散骨・樹木葬」等が当たり前の会話としてなされてきました。

中には本来の意味と異なった使われ方をしているものもありますが、いずれにしろ普通に行われるよう

になりました。これらは核家族、一極集中社会、少子高齢社会といった社会構造の変化により生じたもので、今の社会構造が続く限り更に拍車がかかると思われます。お寺のあり方を社会の変化に追従させるか否かは、悩ましい選択であります。仏教の教えとは何なのか、信仰とは何なのか、お寺とは何なのか、本来の宗教が問われる時代が来たように思います。お寺の存在の基本に立ち返りお寺の有り様を発信していけたらと思います。

福田寺は弘法大師の教えを相承する真言密教のお寺であります。真言密教の祈禱に護摩供養があります。この護摩修行はいくつか種類があり、一般的に修せられるのは、「息災護摩」と「増益護摩」であります。つまり災いを除き安らぎを得る息災護摩と利益を増加させる増益護摩であります。この護摩に象徴されるように真言密教の教えは、人々の幸せを願うことにあります。お寺の基本はここにあるように思います。

宗務総長を退任・東寺伝法学院院長就任

令和元年6月14日をもって12年間

勤めた東寺真言宗宗務総長の職を退任し、次代の人へバトンタッチ致しました。思い返しますと、平成4年に内局庶務部長を拝命し15年間その職に就き、続けて平成19年から宗務総長に付いての12年間でした。更に庶務部長になる前数年間、内局直属の特別企画委員として宗制に関わらせていただきましたので総合すると約30年間に亘り本山東寺に通ったこととなります。平成2年に本堂を落慶した頃から、僧侶としての大半を自坊と本山の両方の勤めをしたこととなります。本山東寺は1200年前空海和尚が住まわれたお寺で、この東寺を活動の拠点として真言宗を弘められました。真言宗の総本山であり、このような本場で重職を勤めることが出来たことは、僧侶として誇りであり大変有り難いこと

でした。

総長退任後、東寺伝法学院院長を拝命することになり、まだまだ本山へ通う状況は変わりません。東寺伝法学院とは僧侶の養成機関で、僧侶を志す若者を1年間俗世間と隔離し、修行生活を学ばせる道場であります。4月に入学をし一学期は仏教・密教の教義、悉曇(梵習字)、声明(お経)等の基礎を学び、二学期は外界と一切遮断された加行(けぎょう)道場で未明から夜中まで修行三昧の日々、三学期は葬儀や法事・祈祷や祈願の実践を学びます。3月の卒業式では、入学時に般若心経も読めなかった者が一人前の阿闍梨として巣立っていく姿を見ることができ、東寺伝法学院の重要性やその職務に付くことの気概を感じるものであります。学院長は授業の他、法流の伝授(お授け)、法要の導師、印信・血脈

の相承等を行います。若い人達との交流が多くやりがいのある職務ですが、責任の重いものでもあります。宗務総長は宗団の政務を司るもので末寺ご寺院やご住職方との関わりが多いのですが、学院長は僧侶の卵を育てていくもので次代を担う若者に僧侶としての指針を示すもので、それぞれに携わることができ、本當に有り難く思います。

京都通いは多少減りますのでその分、自坊福田寺での布教・教化が充実出来ればと思う次第です。令和の時代もよろしくお願い申し上げます。



仮事務所のお知らせ

昨年台風で使用出来なくなった庫裡を6月に解体致しました。この庫裡は昭和34、5年に先代眞栄和尚が建立したもので、住職も小学生の頃より住み慣れたもので、いざ解体となると感慨深いものでした。解体後客殿玄関側にプレハブの仮事務所を置き寺務を行っています。現在住職は借家から通勤しています。今後の予定としては事務室、僧侶集会所、衣部屋、書庫、手洗い所を備えた書院の建設を急ぎたいと思います。あわせて住職の住まいである庫裡も考えなければなりません。元來住職は「住職」という名の通り、お寺に住んでいることが大切なことなのです。お寺の機能の中心である事務室・集会所の建設も早急なものと思います。但し具体的な建設計画は現時点では白紙の状態であります。以上の状況であります。檀信徒の皆様には支障の無いよう、住職、副住職がおりますので、対応は何時でも大丈夫であります。

写経のお勧め

新元号になり初めての新年を迎えようとしています。新たな年は子年で干支もスタートの年で何もかもが新鮮に感じられる年明けのように思います。この佳き年を迎えるにあたり福田寺も新たに写経の会を始めることに致しました。新たにといいますが、以前にも「お経を読む会」として10年以上続いた会があり100会を区切りに終了したものもありました。その後何かの会をと思いつつ今日に至ってしまいました。この度2023年に迎える「眞言宗立教開宗一千二百年記念法会」に向けて総本山東寺並びに東寺眞言宗で、勸進写経を推し進めています。これを機に福田寺でも写経会を始めたいと思います。

写経の功德は「お経」を書写するところにあります。「お経」は仏様の教えが説かれているので、読み書きすることによりお経の功德が自然に染み込んでくると言われます。無心に読み書きすることが大切である

ことの由縁です。上手に書く必要もありませんし意味が分からなくても良いのです。ただひたすら無心で写経することが大切です。

眞言宗には阿字観という禅定に入る観法があります。禅宗の座禅と違うところは何か、一点に集中するところにあります。写経も書くことに集中するところは阿字観に通ずるところがあるように思います。精神統一することにより身心の安定を保つこともできます。

要領は同封の「写経のお勧め」に示してありますので、多くの檀信徒の皆様に参加をお待ちしております。

駐車場について

駐車場整備により駐車スペースは多くなりましたが、施餓鬼や盆の合同供養、護摩の際などは身体の不自由な方にご配慮頂き、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

またその際は詰め込み駐車になりますこと、ご理解下さい。

護摩供養会

二月八日午後三時より修業

(申込み受付中)

恒例の新年厄除け護摩を二月八日の午後三時より修行致します。護摩を焚く修行は近年いろいろな所でされていきますが、正統に受け継がれているのは密教寺院であります。福田寺は、京都・東寺を本山とする真言密教の寺で、創建以来八百八十年の歴史を刻んで参りました。

檀家以外の方でも勿論結構ですので、皆様お揃いで新年の護摩供養にお参り下さい。



期日・・・二月八日、午後三時より

祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄除け)、
身体健全、病魔退散、家内安全、
交通安全、商売繁盛、業運繁栄、
学業成就、合格祈願、安産祈願、
子授け祈願、その他

申込み・・・一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755

FAX 0465(37) 6688

令和二年 厄年

男性(大厄)

前厄 昭和五十五年生まれ

本厄 昭和五十四年生まれ

後厄 昭和五十三年生まれ

(厄) 平成八年、昭和三十

五年生まれ

女性(大厄)

前厄 昭和六十四年生まれ

本厄 昭和六十三年生まれ

後厄 昭和六十二年生まれ

(厄) 平成十四年、昭和五

十九年生まれ

仏教相談

誰でも気軽にどうぞ

勿論檀家さん以外の方でも

仏事に関して、

どうしたらよいのか?

どんな些細なことでも

ご相談下さい。勿論無料。

電話0465(36)2755

福田寺

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より1時まで、住職により新年のご祈祷が修法されます。ご自由に参加ください。

暮れのお参り



古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。

◆お願い◆

境内作業中は第一駐車場をご利用下さい。